

会 議 要 録

会 議 名		令和4年度 第1回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和4年6月29日（水）午後1時30分～午後3時00分
場 所		小平市中央公民館 講座室2
出席者等	委 員	14名（欠席者 3名）
	事務局	子ども家庭部長、教育指導担当部長、家庭支援担当課長、地域学習支援課長、生活支援課長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人		0名
会議内容	1 開会 2 委嘱状交付 3 委員自己紹介 4 会長・副会長の選任 5 議 事 令和4年度の子ども・若者に関する主な事業の概要について 6 情報交換・意見交換 7 その他 8 閉 会	
配付資料	会議次第・席次表 資料1 小平市青少年問題協議会委員名簿 資料2 令和4年度 子育て支援課 子ども・若者関連事業概要 資料3 令和3年度 子ども家庭支援センター相談件数 資料4 令和4年度 子どもの学習支援事業 資料5 子どもへの食材配付事業 資料6 令和4年度 地域学習支援課 子ども・若者関連事業概要 こだいら保護司だより ひらく - 未来をひらく、心をひらく - これからの道 ティーンズ相談室「ユッカ」 令和4年度 小平市子どもの学習支援事業 個別学習教室受講生募集 社会を明るくする運動「生きづらさを生きていく。」 小平市青少年委員だより 子どもが子どもでいられる街に。	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

1 議事

(1) 令和4年度の子ども・若者に関する主な事業の概要について

事務局	令和4年度の子ども・若者に関する主な事業の概要について、子ども家庭部からは4つの事業を説明する。 1つ目の子ども家庭支援センター事業だが、市では、子どもや子育てに関する相談を受ける窓口や、子育てを支援するさまざまな事業を実施しており、
-----	--

	<p>子ども家庭支援センターはその中核機関としての役割を果たし、児童虐待対応を中心に、関係機関との連絡調整のほか、子育て交流広場や子育て講座など、幅広く事業を展開している。令和３年度、子ども家庭支援センターが受けた相談件数は、資料３のとおりである。</p> <p>２つ目のティーンズ相談室事業だが、ティーンズ相談室は、平成２９年３月に開始した事業であり、１３歳から１９歳までの“ティーンズ”を対象に、家庭、学校、職場での人間関係や進路などの悩みを相談員が聞き、孤立感や負担感を軽減するとともに、必要に応じて進路先や医療機関などの関係機関への同行などを行い、自立に向けて支援することを目的としている。各年度の相談内容や相談件数は資料２のとおりである。</p> <p>３つ目のひとり親家庭等学習支援事業・生活困窮者学習支援事業だが、この事業は、経済的な事情で塾などに通うのが困難な家庭の小学校６年生から高校生相当年齢の子どもに学習支援を行い、学習習慣の定着や基礎学力の向上をめざすものである。令和３年度は４つの会場全てでＩＣＴを活用し、デジタル教材を使用した学習支援を実施した。令和４年度も引き続き、４つの会場全てでデジタル教材を使用した学習支援を行い、より一人ひとりに合った学習支援を行っていく。事業の詳細は資料４のとおりである。</p> <p>４つ目の子どもへの食材配付事業だが、令和４年度からの新規事業である。この事業は、子どもの食に関して課題があり、地域から孤立しやすい状況にある要支援家庭等に対して、子ども家庭支援センターで活動している子どもサポーターを派遣し、食材配付や家庭の状況を把握するとともに、適切な支援につなげることで養育環境の改善を図ることを目的としている。対象は０歳から１８歳までの児童がいる家庭であり、関係機関からの相談等があれば、子ども家庭支援センターが対象家庭へ訪問や面談等を行い、利用の判断をしていく。利用に係る費用は無料であり、利用回数は、週１回程度、年間４８回以内である。そして、食材を配付するだけでなく、対象家庭とコミュニケーションを取ることで、家庭状況を把握し、その他の必要な支援につなげていく。事業の詳細は資料５のとおりである。</p>
事務局	<p>次に、生活支援課からは、「社会を明るくする運動の推進」について、令和４年度の主な活動予定を説明する。</p> <p>「社会を明るくする運動」とは、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人達の更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全・安心な地域社会を築こうとする運動で、例年７月が強調月間となっている。</p> <p>令和４年度は、７月１日（金）に駅頭広報活動を行う予定である。小川駅、小平駅、花小金井駅の３駅頭において、構成団体である２０団体が参加し、感染防止対策を講じた上で、啓発物資の配布や、運動の趣旨の呼び掛けを行う。中学生の参加も予定している。</p> <p>また、保護司の方々が市内の公立・私立の小中学校、高等学校及び児童養護施設を訪問し、非行防止に関しての情報交換を行う予定でいるが、こちらも新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらの活動となる。</p> <p>それから、日ごろの家庭生活、学校生活の中で、犯罪や非行などについて考えていることや体験したことなどを題材とし、犯罪や非行のない明るい社会を築くために思うことを、市内の中学２年生を対象に作文をお願いし、作文集「ひまわり」を作成する。そして、この作文の中から東京都推進委員会が実施している「作文コンテスト」に推薦する。</p> <p>今後の活動については、新型コロナウイルス感染症に対応しながらの活動となるが、「小平市子ども・若者計画」の施策である非行防止活動を推進するために、青少年の非行や犯罪を未然に防ぎ、罪を犯してしまった方の矯正・</p>

	<p>更生保護について、正しく理解してもらえよう、引き続き運動の普及啓発に力を入れていきたい。</p>
事務局	<p>最後に、地域学習支援課の令和4年度子ども・若者に関連する事業の概要について、資料6に沿って説明する。</p> <p>地域学習支援課では、青少年健全育成関連の事業を担当している。</p> <p>初めに、1の「青少年委員の運営」だが、青少年委員は、教育委員会が委嘱する、地域で活動する市民の方である。市の青少年教育に大きな協力をいただいております、現在、おおむね小学校区ごとに、合計19人の委員が活動している。</p> <p>次に、2の「青少年の健全育成」だが、主に、青少年にさまざまな体験の場、活躍の場を提供する趣旨の事業を実施している。(1)の青少年対策地区委員会活動の支援は、いわゆる青少対の活動である。小平市では、19の小学校区ごとに地区委員会が設けられ、地域の方々の自主的な組織として、地域の青少年の健全育成を目的に、地域に根差した実践活動を展開してもらっている。(2)の青少年リーダー養成講座は、小学生を対象とするジュニアリーダー養成講座、中・高生を対象とするシニアリーダー養成講座を、1年間にわたって開催している。先ほど説明した青少年委員が、講座の企画・運営、指導者として携わっているほか、講座の卒業生の有志が「青少年リーダー」として、講座のサポートスタッフとなってくれている。</p> <p>そして、3の「学校と地域の連携推進等」だが、学校と地域が連携・協働し、地域社会全体で子ども達の成長を支える体制づくりを進めている。地域教育コーディネーターが、学校と地域等を結ぶパイプ役として活躍している。</p> <p>最後に、4の「その他」、青少年に関連する事業として、成人式などの事業を掲載している。</p> <p>令和4年度も、新型コロナウイルスの影響により事業の延期や中止をせざるを得ない状況も考えられるが、感染防止対策を行いながら各事業を実施していきたい。</p>
委員	<p>学習支援事業について、昨年度の利用人数は何人だったか。</p> <p>また、食材配付事業について、必要な家庭が自ら申請するのか、それとも、必要な家庭を支援機関が見つけて声かけをしていくのか。</p>
事務局	<p>学習支援事業の人数について、集合型は1会場につき10～20名程度であり、4会場で合計50名が受講している。派遣型は会場に来られない方を対象に、5名が受講している。</p> <p>食材配付事業の申請方法について、要保護児童対策地域協議会に参加している関係機関等からの紹介、または本人からの申請により、子ども家庭支援センターで面談の上、実施するかを決めている。</p>
委員	<p>青少年の健全育成に係る事業は、コロナ禍でも実施できるようどのような対策を検討しているのか。</p>
事務局	<p>基本的な感染症の対策を、熱中症に注意しながら実施していく。</p> <p>青少年リーダー養成講座など人数が集まって実施する講座は、人数を分け、時間をずらすことで密を避けて実施している。その他の各事業も同様の対策をしながら実施していく。なお、年度後半の事業における感染症対策の検討はこれから行っていくが、冬場の感染状況等も踏まえつつ検討していきたい。</p>
委員	<p>食材配付事業について、子どもサポーターが有償ボランティアで実施するとあるが、ボランティア活動を前提として問題なく実施できるか検討は行っ</p>

	<p>たのか。また、有償ボランティアでなくても、子どもの育成分野において研修を受け、あるいは実務経験のある方などに事業を請け負ってもらう形では実施できないのか。</p> <p>子ども食堂とは異なった観点からのサポートなので、良い事業として育っていてもらいたいと感じた。</p>
事務局	<p>子どもサポーターは令和２年度より活動実績があり、活動内容としては、例えば友達の輪に入って遊べない子どもに対し、一緒に公園で遊んだり、外出の支援などを行っている。令和４年度からはその活動に加えて、支援が必要な家庭を訪問して食材の配付などを行ってもらうが、これまでの活動から得た知識や経験を活かし、十分事業を担っていけると考えている。また、子どもサポーターでは対応が難しい家庭については、子ども家庭支援センターのワーカーが対応していくことになる。なお、子どもサポーターは年１回募集をかけており、希望者には１週間程度の研修を受講後、子どもサポーターとして登録してもらう。活動に対する費用は１回につき千円で、活動時間は１回２、３時間程度であるが、志の高い方に担っていただき、要支援家庭に対してできる部分の支援をしてもらっている。</p> <p>また、子ども食堂は月１回程度実施し、地域の家庭に対して食の支援をしているが、中には子ども食堂へ自発的に行くことができない子どももいる。食材配付事業はそういった子どもに対して、こちらから訪問して食材等を届けたり、一緒に食事を作るなどして子どもの自立に必要な力を身につけさせることができる活動である。そして、対象がヤングケアラーの家庭である場合には、支援の一つとしても機能していければと思う。</p>
委員	<p>子ども家庭支援センターの職員数と、ユッカの職員数を教えてほしい。</p>
事務局	<p>子ども家庭支援センター全体の職員数は１８名で、そのうち、子育て交流広場や虐待の対応を行う職員が１６名、ユッカの職員が２名である。</p>
副会長	<p>子ども家庭支援センターの児童虐待相談件数について、例年の件数の推移はどの程度なのか。また、０歳での虐待相談件数というのは、どのようところからの相談なのか、そして、そういった家庭へのフォロー体制はどうなっているのか。</p> <p>最後に、子ども家庭支援センターへの相談は１８歳になるまでということだが、１８歳以降は他の相談先に繋げるといった対応は可能なのか。</p>
事務局	<p>児童虐待相談件数は、令和２年度まではずっと増加していたが、令和３年度は例年よりも件数が落ち着いており、減少となった。ただ、管内の児童相談所に寄せられる児童虐待相談件数は令和３年度も増加している。</p> <p>０歳の虐待相談件数としては、健康センターの保健師からの通告や、夫婦喧嘩の声を聞いた近隣住民からの通告である。フォロー体制としては、子ども家庭支援センターのワーカーが健康センター保健師と連携をとったり、保育園への入園のために必要な手続きの支援をするなど、必要に応じて様々な対応を行っている。</p> <p>１８歳以降の相談先について、ティーンズ相談室ユッカは引き続き、１９歳まで相談を受けることが可能である。</p>
副会長	<p>フォロー体制について、個人ではなく組織的に対応しているということだったので安心した。</p>
委員	<p>ヤングケアラーについて、小平市はどの程度実態を掴んでおり、どのよう</p>

	に対策していくのか。
事務局	<p>昨年度教育委員会が、新たに策定する小平市教育振興基本計画の基礎資料として、「小平市の教育に関するアンケート調査」を実施した。その中で、「親や祖父母、兄弟姉妹などの身の回りのお世話や買い物・料理・掃除・洗濯などを大人に代わって行っていますか。」という質問項目を入れたところ、結果としては小、中学生ともに５％以下であった。これについて、子ども自身の捉え方も個人差があり、負担感もそれぞれであるため、はっきりした結果とはいえないが、そういった子どもは一定数いると捉えている。家庭でのお手伝いの範囲であれば問題ないが、それが度を越えて子どもの負担になったり、学業への支障や、親の介護で学校にも行けない等の問題が生じるようであれば、要支援家庭等として子ども家庭支援センターが支援をしていく。</p> <p>自分がヤングケアラーであるということを、本人に認識してもらうことも大切である。そのため、市報や若者応援ガイドブックへ掲載する等の取り組みを実施し、子ども自身にヤングケアラーについて知ってもらうよう周知していきたい。</p>

２ 情報交換・意見交換

委員	<p>小平警察署では、児童通告の件数が非常に多くなっており、児童相談所や子ども家庭支援センターと連携を図っている。内容は家出少女や、アプリを通じて不特定多数の人と繋がり、誘拐に発展する可能性のある事件などが多い。</p> <p>また、「受け子」として特殊詐欺へ加担する少年もいる。インターネットの闇サイトにおいて、少年が「受け子」として簡単にお金を稼げるという勘違いから特殊詐欺に加担し、被疑者として検挙されることも多い。一度加担すると、SNSなどを通じて個人情報を引き出されてしまい、それが弱みとなりなかなか抜け出せない仕組みになっている。こういった事態が起こらないよう、警察だけではなく、学校側からも指導をしていただきたい。</p>
委員	<p>SSWの有効活用が子どもの支援には効果的である。教員は家庭のデリケートな問題に入り込みにくい、そこをSSWに入ってもらうことで円滑に解決するケースがよくある。SSWは中学校区に１名配置され、校区内の小学校もカバーしているが、家庭の問題に対して、子どもが小さいうちからアプローチできるとより効果的であることから、校区内の小学校長とも連携しながら、地域で家庭を支援していきたい。</p>
委員	<p>児童養護施設入所者の中で、知的障がいや発達障がいの診断はされないものの、その傾向があるいわゆるグレーゾーンの子どもの数が増えている。施設内でこのような状況であるため、地域の子供達においても、グレーゾーンの子どもの数は増えているのではないかと。また、そういった子どもは家族との関係がうまく作れず、それが原因で虐待へ繋がっているケースもあるのではないと思う。</p> <p>また、施設においても未就学の子どもの親を対象としたひろばを実施している。活動が口コミで広がり、少しずつニーズが増えてきている。</p>
委員	<p>私が住んでいる地域では高齢化が進み、特殊詐欺などの犯罪を受けやすい環境になっている。引き続き防犯安全大使として地域を見守り、防犯に努めていきたい。</p> <p>また、保護司として、罪を犯した人を更生に繋げる活動も続けていきたい。</p>

委員	<p>コロナ禍において、学校や青少対の活動などで子ども達に楽しい場を提供するために何ができるだろうかと、大人達でいろいろと考えながら取り組んできたことが印象に残っている。</p> <p>青少年リーダー養成講座について、1年目は中止になり、2年目は途中からリモートでの実施を始め、対面での実施が難しければリモートでの実施が可能となった。3年目となる今年は、今までの経験を踏まえて実施形態を検討しつつ取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>現在市内でNPO法人を運営している。初めは個人保育などを行っていたが、今では市からの依頼を受け、病児・産後支援など、多くのことを行っている。</p> <p>我々の活動の強みは、訪問先でしか垣間見ることができない家庭の状況を、行政や支援機関に報告することができるところである。そのため、家庭とコミュニケーションをとって関係性を作るとともに、行政や他の専門分野の関係機関と連携して家庭を支えていくことが大切だと思っている。</p> <p>また、子どもの支援に入ることで、夫婦間や家族間でコミュニケーションがとれず、誰にも頼れず困っているといった家庭の課題も見えてくる。そういった親への支援の必要性も感じている。</p>
委員	<p>広汎性発達障害の子どもがおり、現在は成人して就職している。1、2年前は頻繁に発熱し会社を休むなど就労状況が不安定であり、会社とも何度か面談をしたこともあった。その際に、行政や支援機関が会社と連絡を取り合いサポートしてくれたおかげで、今では休暇を取らないほど安定して就労できている。こういった支援は非常に有難いので、今後も実施してもらいたい。</p>
委員	<p>食材配付事業について、人として大切な「食べること」から、その後の支援へ繋げていくという発想はとても良い。そのためには子どもサポーターという人材の育成が大切であるが、このような人材が地域でどんどん育っていくと良いと思う。</p>
委員	<p>コミュニティスクールの会長をしていて感じたことだが、コロナ禍において、大人は人と関係性を作るのが下手になり、うまく連携がとれなくなった。コミュニティスクールは、コロナが流行する前は対面での会議が当たり前であったが、今は集まること自体しなくてもいいという意見や、連絡は全部電話やメールで行えばいいという意見もある。それはある意味便利ではあるが、やはり対面で話をしないと気持ちが伝わらないし、人との関係性が作れないと思う。有事の際に多くの地域の住民が協力できるよう、地域の意識を高くしていきたいが、高齢の方ほど懸命に活動し、本来活動すべき若い親は関心なくそっぽを向いている。そういった若い親の意識を変えていけるよう、これからも活動を続けていきたい。</p>
委員	<p>小平市はさまざまな若者の活動の機会があると思う。成人式の運営についても実行委員会があり、その中で若者が成人式を自分自身の事として捉えて活動できるため、非常に良い経験になると思った。ただ、中高生など地域と離れてしまいがちな年齢層もあるため、そういった若者に向けて、自分達の意見が形になる委員会活動や、あえて若者にターゲットを絞った企画などがあると、継続的に地域の活動に参加しやすくなるのではないかなと思う。</p>
委員	<p>コロナ禍でオンライン開催となった成人式の司会をやらせてもらった。青少年リーダー養成講座やひまわりの作文集などを通じて、青少年が大人や他校の生徒達と関わる機会があるのは良いと思う。</p> <p>また、先ほど詐欺の話が出たが、若者の間では、ゲームやSNS上で知り合った人と実際に会うことは当たり前のようにある。親世代にしてみれば信</p>

	<p>じられないと思うが、そのように若者の文化が変わりつつあるので、改めて学校などから、トラブルにならないためのＳＮＳのルールを周知することは大事だと思うし、もし何かあったときに相談できる公的な場所などもあると思う。</p>
副会長	<p>青少対は２年間活動できなかった。大人にとっての２年間はあっという間だが、その間にも学校を卒業してってしまう子ども達があり、焦りながら何かできないかを考えて過ごした２年間だった。</p> <p>また、青少対の活動の中で私が一番意義のあるものと思っていることは、活動に参加する子どもが、年齢の異なる子どもや近隣住民などと広く関わることである。その中で子ども達はすぐに上手にコミュニケーションをとれるようになる。しかし、そういった機会を逸してしまった２年間でもあった。</p> <p>今年度も１学期の活動は調整がつかずできなかったが、焦ることなく、２学期から活動できるよう学校側と調整していきたい。</p>
会長	<p>事務局からの今年度の青少年に係る事業の説明を受けて、各委員が活動する分野から大変有意義な話をいただいた。特殊詐欺の話や、ＳＳＷの活用、新規事業である食材配付事業、発達障がいへの理解や関わりなど、様々なご意見をいただき、また、情報交換を行うことができた。本日いただいたご意見は、事務局において今後の施策の参考にされるものと思う。</p>